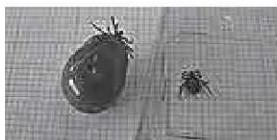


健やか広場 ▶ ダニ類にかまれないようにしましょう

マダニとは、固い外皮に覆われた比較的大型のダニで、食品等に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウダニ」などの家庭内に生息するダニとは種類が異なります。市街地周辺でも見られますが、主に森林や草地などの屋外に生息します。肉眼では気づきにくいことが多く、吸血前後で形と大きさが変わる特徴があります。



吸血後は約 1.5cm ほどになる



吸血前のマダニ (約 0.5cm)

マダニの特徴

これからの季節、野外活動の機会が増える時期ですが、ダニ類も活発化する時期にもなります。マダニやつが虫による病気にからまないよう野外でのダニ対策を行いましょう。

つが虫の特徴

つが虫とは、地中にいるダニで、幼虫の時期に地表へ出て一度だけ野ネズミなどに吸着する習性があり、その時にヒトをかむことがあります。ヒトをかむ幼虫は約0.3mmの大きさで肉眼では見えにくく、またかまれても気づかないことが多いため、野外に生息するマダニやつが虫などのダニ類がウイルスや細菌などを保有している場合、かまれると病気を発症することがあります。特に4月～12月にかけて最も多く患者が発生するため、これらのダニ類にかまれないように心がけることが大切です。



つが虫

ダニ類にかまれないためのポイント

肌の露出は最小限に！

上着の袖やズボンの裾を手袋や長靴に入れるなど、肌の露出をできるだけ少なくし、足は完全に覆う靴を履きましょう

防虫スプレーで寄せつけない！

肌が出る部分には防虫スプレーなどを活用すると効果的です

滑りやすい生地を選ばない！

付着したダニを見つけやすく、つきにくくするため、明るい色や滑りやすい生地の服を着用しましょう

衣類を地面に置かない！

首にかけるタオルや脱いだ上着などは直接地面に置いたり、木にかけたりせず、できるだけカバンなどの中に入れておきましょう

長時間地面に座らない！

長時間地面に直接座ったり、寝転んだりするのはやめましょう

草むらや藪などで活動をした後は

服をはたいてダニ類を落とす！

車に乗る前、家に入る前には服をはたき、家の中にダニ類を持ち込まないようにしましょう。着ていた服はすぐに洗濯するか、屋外で天日干ししましょう

かまれていないかチェック！

屋外活動後は入浴をし、ダニにかまれていないか、特にわきの下、足の付け根、手首、膝の裏、髪の毛の中などを確認しましょう

もしもダニ類にかまれたら

無理に引き抜こうとせず、速やかに医療機関を受診し、処置してもらいましょう。また、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱・倦怠感・発疹・関節痛・頭痛・腹痛や下痢等の症状があれば医療機関で診察を受けましょう。放置しておくと重症化して死にいたることもあるため注意しましょう。



がんばってます！消防団

編集 ● 本部

災害への備え

(台風・水害編)

台風や大雨は大規模な災害をもたらすほか、時には停電を引き起こすこともあります。日ごろの安全対策やいざというときの避難行動について知っておくことで、被害の未然防止、軽減に備えましょう。

時には停電を引き起こすこともあります。日ごろの安全対策やいざというときの避難行動について知っておくことで、被害の未然防止、軽減に備えましょう。

家の中の安全対策

不要不急の外出は避けるのが基本。家の中で安全に過ごせるように準備をしておきましょう。また、長時間にわたる停電や断水が発生する可能性もあるので、そのための備えも必要です。

1 室内で安全に過ごすために

カーテンなどは引いておきましょう。強風で窓ガラスが割れても、破片が部屋の中に飛び散りにくくなります。また、窓枠など雨や風が入ってきやすいところには布切れをつめこむ、浸水に備えて大切なものはなるべく高いところに移しておくなどの対策も必要です。

2 必要なものを準備する

長時間外出ができなくなるケースも想定されます。食べ物など必要なものを非常持出袋として用意しておきます。特に、乳児や病人など、特別な食事が必要な人がいる場合はその準備も必要です。

また、万が一の停電に備え、懐中電灯や携帯電話用のモバイルバッテリー、予備の乾電池などをすぐに取り出せる場所に用意しておきましょう。浴槽やバケツなどに水をためておくと、断水があったときに活用できます。

3 避難経路を確認する

避難する場合、どこに、どのルートを通っていけばいいか、安全な場所や経路を事前に確認し、家族で共有しておきましょう。「ハザードマップ」などで自宅やその周辺にどのくらい水害のリスクがあるかを確認します。避難の際は、河川や海岸の近くなどの危険箇所は通らず、安全な経路を選ぶようにしましょう。



町公式HP

早めの防災行動を

大雨や台風が近づいている時は、テレビやラジオで最新の気象情報や河川情報に注意しましょう。大雨や洪水警報が発表された場合は、避難準備をしてください。

風雨が激しくなってきたり、暗くなってきたりからの移動は困難です。特に高齢者や子どものいる家庭は、早めに避難をしましょう。